

■大浦兼武 薩摩出身ながら、松島事件の立役者となって、山県有朋系官僚閣の中心を歩むも、選挙干渉で内相辞任に。

おおうらかねたけ

国定忠治疎・1850＝ 薩摩国薩摩郡宮之城に生まれる。

ペリー来航・1853＝ 3歳：

安政の大獄・1859＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝10歳：

薩摩士族の子として尚武の教育を受け、

明治維新・・1868＝18歳：官軍として戊辰戦争に参加、

のち東京府の警察官となるが、

明治6年政変 1873＝23歳：征韓論の議が起こると、他の薩摩出身警察官と共に退隠し故郷に帰る。

その後、不平士族とは快を分かち、再び上京して大警視川路利良の下で警察官となり、

西南戦争・・1877＝27歳：西南戦争では政府軍として活躍する。

以降、内務官僚として地方に赴任、

明治14年政変1881＝31歳：

大阪府警本部長になっていた時、

秩父事件・・1884＝34歳：*松島遊郭でパトロール中の警官が、遊んでいた兵士数人に悪さされて連行したところ、奪還にきた軍隊と警察が衝突(松島事件)、年始の軍服姿で騎馬して駆け付け大音声、騒ぎは収まるも、死傷者も出て、陸軍と内務省の対立にまで発展したが、

帝国大学始・1886＝36歳：

その勇壮ぶりなどから、山県有朋の面識を得ていわゆる“山県閥”のひとりに数えられるようになり、

帝国憲法発布1889＝39歳：

大本教・・・1892＝42歳：第2回総選挙では、警察官を指揮して、品川弥次郎による大干渉を実行。

郡司千島探検1893＝43歳：*その功で、島根県知事に就任、

日清戦争始・1894＝44歳：

日清戦争終・1895＝45歳：

山口県・熊本県の各知事を経て、

子規句歌革新1898＝48歳：*第2次山県内閣で警視總監となる。

田中正造直訴1901＝51歳：第1次桂内閣で再び警視總監となる。この時、警察官の規律の確立や娼妓の任意廃業などに尽力。

日比谷公園・1903＝53歳：通信大臣に就任し、

日露戦争始・1904＝54歳：

日露戦争終・1905＝55歳：

満鉄発足・・1906＝56歳：西園寺内閣の時、依願免官。

アヲキ創刊・1908＝58歳：第2次桂内閣で農商務大臣、

中央倶楽部などいわゆる吏党指導者として活動、敵対政治勢力からは探偵政治総指揮者として恐れられ、

明治天皇没・1912＝62歳：第3次桂内閣で内務大臣、

大正政変・・1913＝63歳：立憲同志会結成に参加し、総裁加藤高明と共に同党の指導に当たるが、

21ヶ条要求・1915＝65歳：*大隈内閣の内務大臣に任命されて、総選挙に絡む贈収賄事件(大浦内相事件)に関与、平沼騏一郎検事総長の断固たる姿勢の前に、ついに政界を引退し、

鎌倉に閑居して、

本格政党内閣1918＝68歳：没した。

“物騒”な人物として敵対勢力から忌み嫌われたが、国家への強い忠誠心と勤勉さ・実行力で味方からは非常に信頼を得ていた。